

平城宮跡第21・22次発掘調査報告会資料

1965・2・13

奈良国立文化財研究所

平城宮跡才21・22次発掘調査報告会資料

平城宮跡の才21・22次発掘調査は東面北門（山門）の東西にわたる地域で、昭和39年4月より行われ、現在も継続調査中である。

今回の調査地は才2次内裏の東外郭から山門に至る地区と山門東部の東一坊大路を含み、発掘した面積は全体で82.9アールに達した。発見した遺構は建物56棟・築地2条・柵12条・溝11条・井戸4ヶ所（2月12日現在）で全体に5時期にわたって建てかえられている。

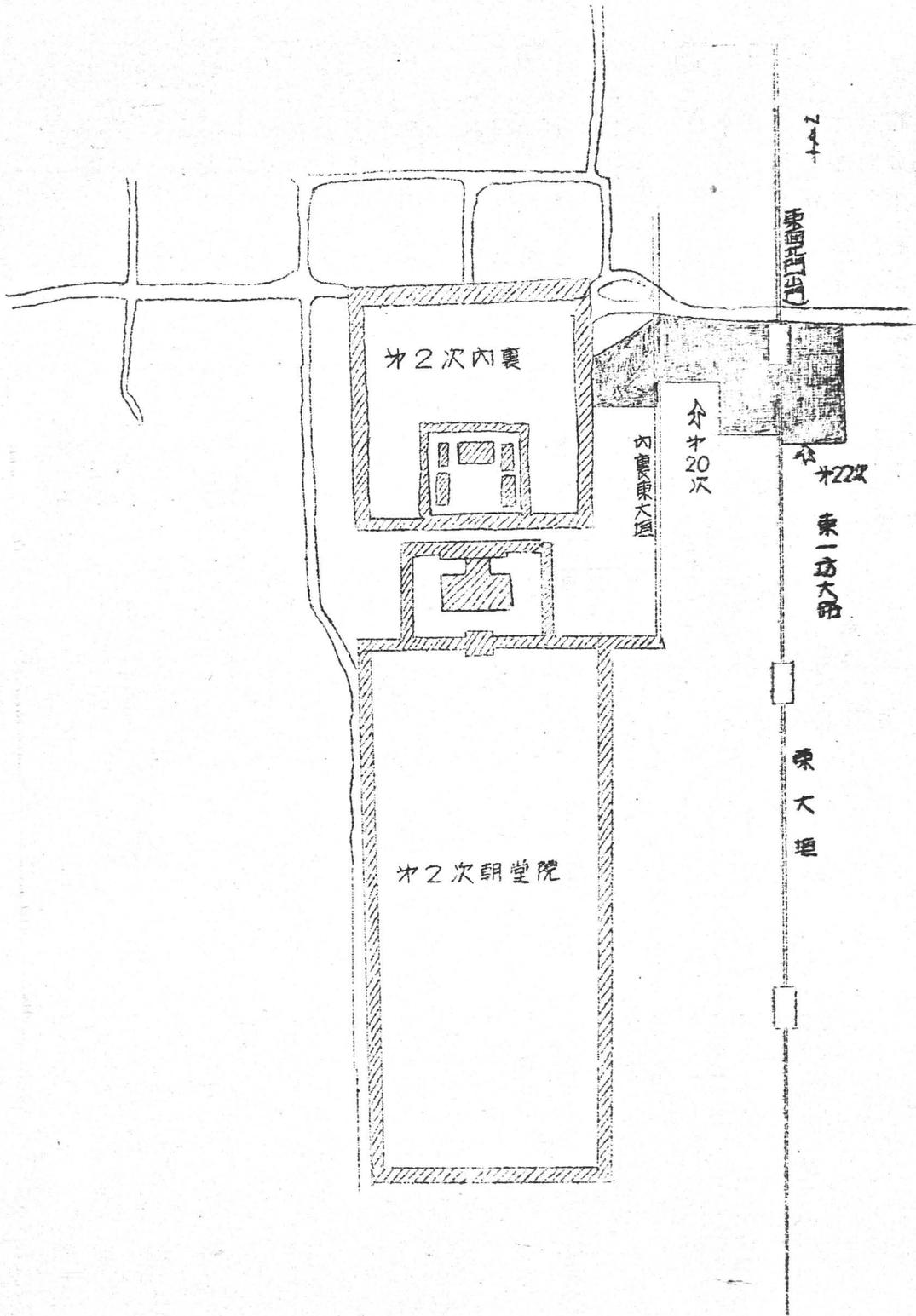
今次調査の主な成果は内裏外郭東部にあつては東を限る大垣が検出され、奇柱を構った構造であることが判つたこと、才19次調査で発見された凝灰岩積堀の南50mからこれに平行する溝が発見され、この間に多数の官庁建物が検出されたことである。

内裏大垣と山門の間では大垣から20m東で南北に通る玉石積の溝が発見され、溝の中から多数の木簡を含む多量の遺物が出土したこと、および山門から西へ向つて砂利敷の宮内道路が設けられ、官庁の建物はその南に区劃を限つて配置されていることが明かつたことである。

山門東の東一坊大路では道路の中央から覆屋を有した井戸2箇が一列になつて出土し、そのうち東側のものは平面が2.8m×5.2mぐらいの矩形で、中の水を中段から踏渠で南へ抜いている特殊なものであつた。なお東面北門の跡はすっかり削平されてしまつている。

平城宮才21・22次発掘調査発見遺構類別一覽表

期別	内裏東外郭				内裏東大垣山門間				東一坊大路			備考	
	建物	築地	柵	溝	建物	築地	柵	溝	建物	築地	柵		
才I期					2	(1)		3					
才II期	4	1	1	2	7		1					天平17年後	
才III期	3		1		6		4		3	1	2	2	天平宝字前
才IV期	3				1	4			2				
才V期	5				5	1		2	1	2	1	1	百城院
その他	5		3		1				1				
合計	21	1	2	2	28	1	5	5	1	3	2	4	2



才2次内裏

東面西出

才1

介才20次

内裏東大垣

才2次

東一坊大路

東大垣

才2次朝堂院

東一内大銘出土木簡

表 「塔盾国赤穂郡□□□」

裏 「五保栗湊虫赤米五斗」

(原張国山田郡)

「西村郷御 湊米五斗」

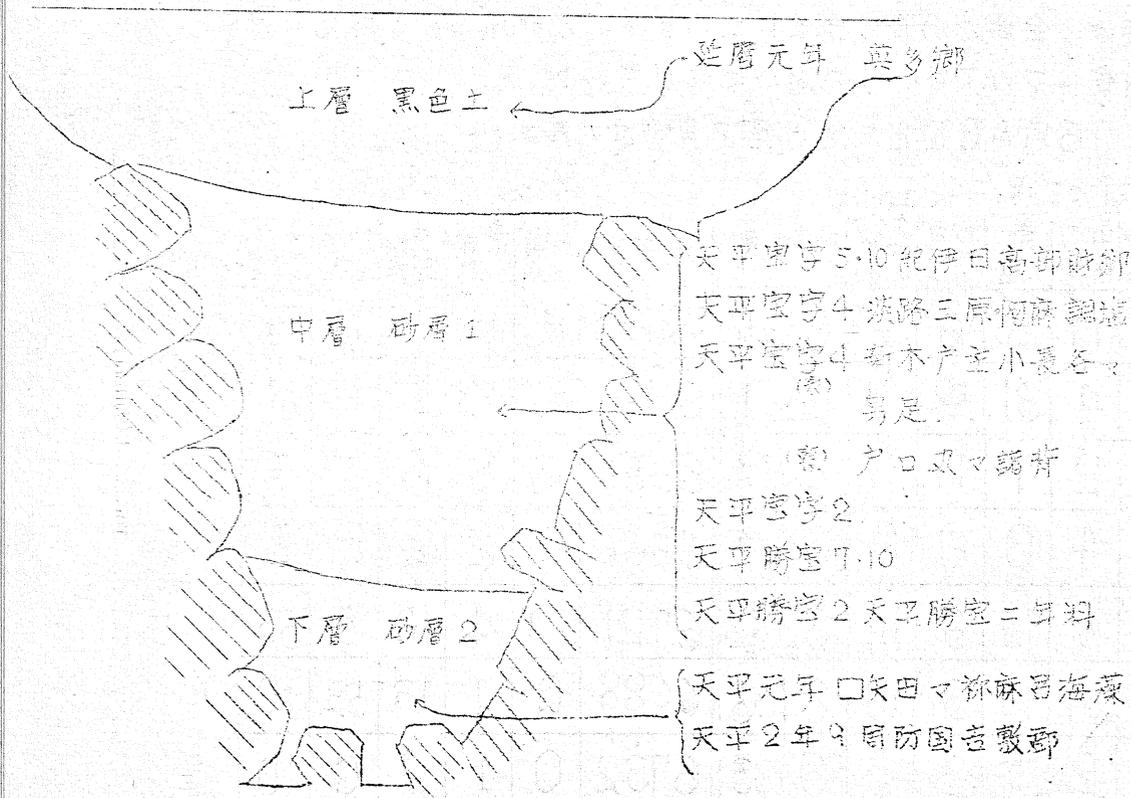
「丹後国熊野郡田村郷刑マ交鬼五斗」

「駿河国安倍郡番上村子□ □ 寶龜元年□」

東大溝で検出した木簡は、天平元年より延暦元年にわたっているが、出土層序を示すと次のようになる。

東大溝断面

木 簡



その他溝中から出土したものは、和銅開珎・万年通宝・神功開宝
 ほど銅銭のほか、「天長節」の墨書をもつ土器、三彩釉・二彩釉・
 緑釉などの施釉陶器、陶硯、土馬・紡車、人形、桧扇などがある。

東一坊大路で出土した木簡の大部分は宮外の外隍から検出したも
 のであるが、そのうち、宝龜元年の年紀をもつものは、井戸の排水
 溝から出土したもので、大路上の井戸が、奈良時代末には存した事
 を示している。

その他、特に顕著な遺物としては、内裏の内郭から、直径30cm
 におよぶ獸脚をもつ円硯が出土した。また井戸からは、木彫の人
 形、緑釉陶器などが出土している。

山門の西南の整地層からは、多数の瓦類と土器類が検出されてい
 るが、それとともに土馬が数隻検出されている。

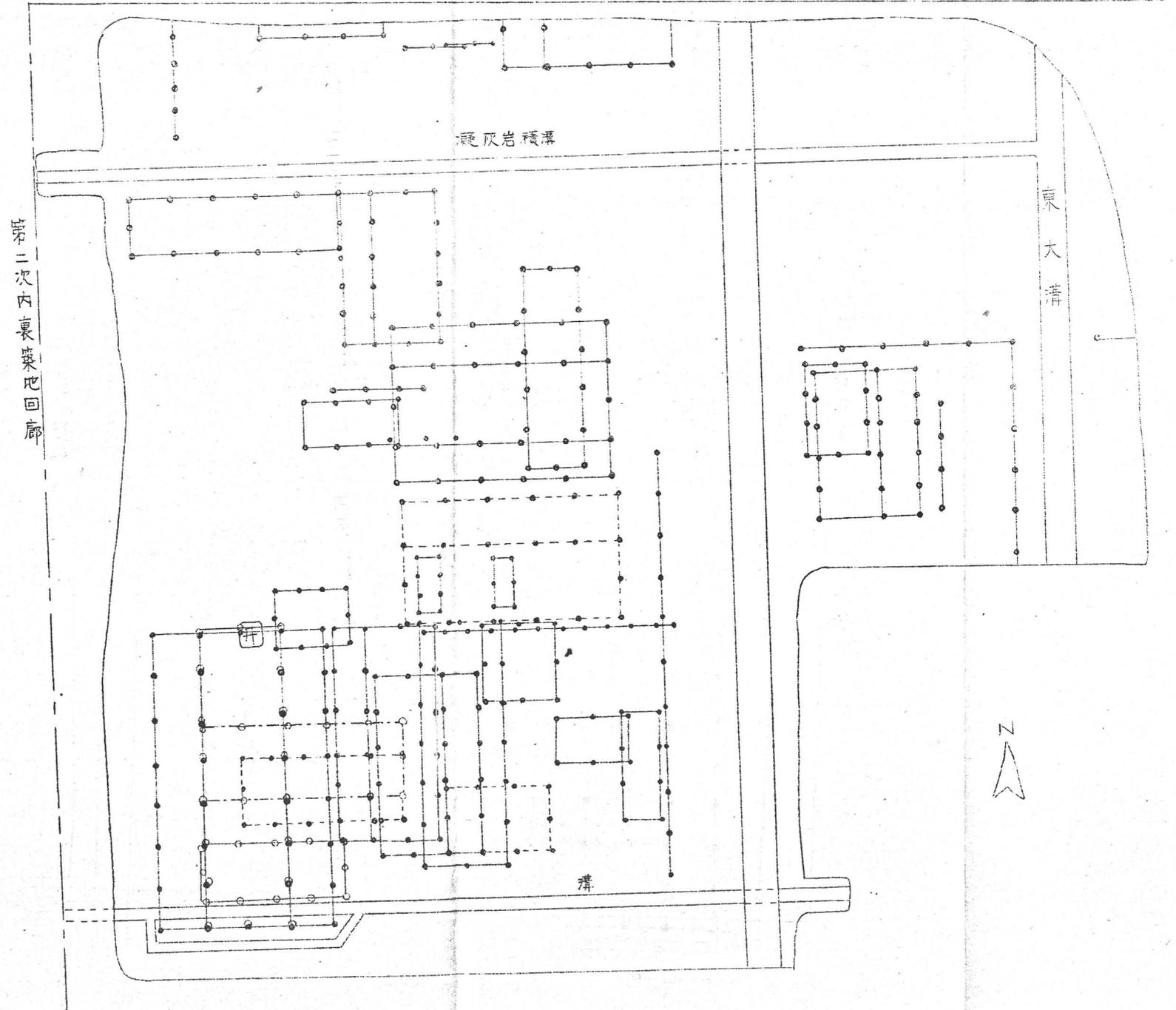
瓦類は、全域にわたり出土しているが、各地域出土の軒丸・軒平
 瓦の割合については、次のようになっている。

6AAC区出土地別 軒丸・軒平瓦分類表

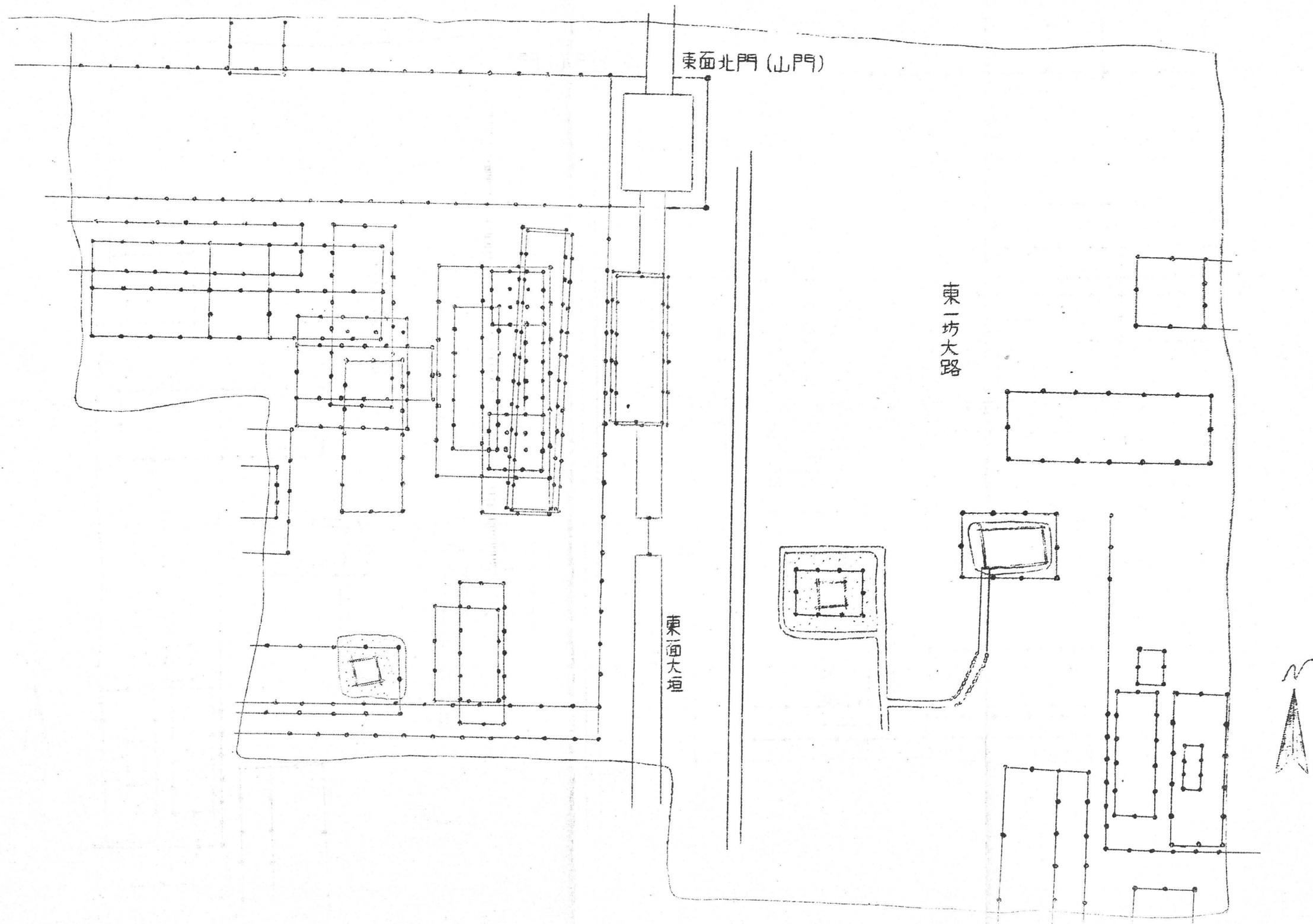
21・22次			369次		369次		21・22次				
東一坊 大路	山門 西南	東 大溝	2次 内裏 外郭	2次 内裏 内郭	軒丸瓦	軒平瓦	2次 内裏 内郭	2次 内裏 外郭	東 大溝	山門 西南	東一坊 大路
%	%	%	%	%			%	%	%	%	%
3	11	8	6	6	6225	6663	9	12	25	9	6
6	4	31	58	29	6311	6664	42	63	22	11	3
0	2	7	11	31	6313	6685	15	8	8	7	3
2	4	0	0	0	6314	6666	18	2	2	3	2
63	5	15	9	12	6282	6721	10	4	10	5	53
5	54	17	3	0	6135	6688	0	1	13	53	10
11	2	7	2	0	6133	6732	0	1	9	0	10
10	18	14	11	12	その他	その他	6	9	11	12	13

平城宮跡第21次発掘調査発見遺構(西半部)

一系通り



平城宮跡第21.22次発掘調査発見遺構(東半部)



平城宮跡国道24号線バイパス建設予定地調査概要

1. 第22次北地域発掘調査

の期間 昭和39年11月10日～昭和40年5月15日
の検出遺構 堀立柱建物10棟 井戸2基 溝5条 柵4条
面積 31a

宮域東面北門の推定された場所であるが門を確認することはできなかつた。また、東一坊大路も明らかでなく、大路推定地上には、堀立柱建物、井戸、柵などが検出され、出土遺物（木簡、甕）などから造酒司関係の役所の所在を予想することのできる地域である。

2. 第22次南地域発掘調査

期間 昭和40年2月4日～昭和40年7月3日
検出遺構 堀立柱建物7棟 井戸1基 溝9条 柵13条
面積 43a

東一坊大路の推定地には第22次北地域と同様に建物、柵、溝、井戸などの遺構が錯雑し、道路の存在を疑わせるものである。また、東一坊大路に直交すると考えられていた一条大路も同じ状況にあり、東の宮域を示す大垣も検出されず、東面中門もまた、発見されなかつた。

3. 第32次発掘調査

期 間 昭和41年1月6日～昭和41年4月20日

検出遺構 東一坊大路道路敷 二条大路道路敷

堀立柱建物4棟 柵2条 築地2条 井戸1基
溝8条 橋2基

面 積 40a

宮城東南隅で、東一坊大路（幅19m）二条大路（幅35.7m）の交叉する状況が明確となった。これらの道路はそれぞれ側溝および三条一坊、三条二坊を限る築地をともなっており、遺構の残存状況が明らかである。

4. 第39次発掘調査

期 間 昭和41年12月8日～昭和42年5月10日

検出遺構 基壇建物1棟 堀立柱建物7棟 柵3条 築地
3条 溝12条

面 積 38a

この地域は宮城東面の大垣に沿った東一坊大路に一・二条間の条間大路がつながると考えられていた場所である。ところが調査の結果、東一坊大路は北へ延長しないで条間大路に接続している。また、ここで東一坊大路上に南面する形で門

の存在が明らかになった。

そのため、この地点より条間大路に沿って東へ宮域が拡張されていることが判明した。

5. 第43次発掘調査

期 間 昭和42年9月18日～

検出遺構 建物5棟 築地1条 柵7条 溝6条 暗渠1条

面 積 332

第39次発掘調査地域の北に隣接した地域であり、昭和42年11月27日現在、東院の一部かと推定される南北にのびる築地・柵・溝などの遺構や三彩緑釉の施された瓦等が発見されている。